

## 第73回 ビジネス文書実務検定試験 (6.11.24)

## 第1級速度部門問題 模範解答

近年、バケツ稲を体験学習として実施する学校が増えている。こ	30
れは、農業協同組合（JA）が平成元年に始めた事業で、バケツを	60
使用して稲を栽培するものだ。その特徴は、屋上やベランダなどの	90
限られたスペースでも手軽に始められ、学校や家庭で実践しやすい	120
ことだ。そのため、自然に触れる機会が少ない都市部においては、	150
貴重な農業体験のプログラムとして導入されている。	175
教育機関でバケツ稲に取り組む理由は、土づくりから収穫するま	205
での一連の農業体験をしながら、植物の成長が観察できるからだ。	235
育てた稲を脱穀まで行って食べることで充実感を得られ、生産者に	265
対する感謝の気持ちも養える。水の管理が徹底できないと稲が枯れ	295
てしまったり、スズメや病害虫などの被害に遭って収穫量が減少し	325
たりする。しかし、上手に栽培すれば、バケツ3個で茶碗に一杯ほ	355
どのご飯になるという。	367
JAでは、無償で栽培セットを配布しており、提供数は現在まで	397
に1164万セットを超えている。また、ホームページに栽培日記	427
や役立つ資料などを掲載することで、バケツ稲にチャレンジする多	457
くの人を支援している。さらに、初めて導入する学校から出前授業	487
の依頼があれば、JAの職員や地域の農業者が出向き、土づくりか	517
ら収穫までの工程ごとに助言と指導をしてくれる。	541
ある学校では、土づくりと肥料の与え方を班ごとに変える方法を	571
試みた。その結果、子どもたちは収穫量や品質に差が出ることを知	601
り、試行錯誤を繰り返しながら工夫する大切さを理解したという。	631
バケツ稲を通して得た学びは、自然の循環や作物の生産過程だけ	661
ではなく、問題解決能力の育成にもつながる。今後、農業に興味を持	691
つ子どもが増えていくことを期待したい。	710

## 第73回 ビジネス文書実務検定試験 (6.11.24)

## 第2級速度部門問題 模範解答

ここ数年、インターネットの普及や携帯端末の発達などにより、	30
電子書籍の市場規模は拡大している。その中でも、電子コミックは	60
売り上げを伸ばし続け、今では約9割を占める。試し読みから始め	90
て、購入や定額制の読み放題に切り替える人もいる。	115
電子コミックは、アニメの流行や漫画アプリの広がりを受けて、	145
普及していった。縦に読める形式のものは、若い世代を中心に好ま	175
れている。これはスマートフォンに適したコマ割りが特徴で、絵も	205
文字も大きくて読みやすいという意見が多い。	227
スマートフォンやタブレットを使う電子書籍は、保管場所を取ら	257
ず、いつでも手軽に読むことができる。さらに、店舗へ行かなくて	287
も購入が可能だ。しかし、電池が切れて読めなかったり、目が疲れ	317
やすかったりする欠点もあり、注意が必要である。	341
現代は、幼少期からICT機器に慣れ親しむ人が増えている。そ	371
のため、利便性が高い電子書籍は、今後も安定した需要が見込まれ	401
る。紙媒体の代用ではなく、普段から本に触れない人でも読みたい	431
なる機能が充実し、豊かな読書生活に貢献することを願いたい。	460